

菜の花プロジェクト2018 報告会

平成30年12月8日（土）午前10時から、成徳公民館を会場に倉吉市内小学校児童代表（38名）、中学校生徒代表（29名）が集まり、「菜の花プロジェクト2018報告会」を開催しました。各小中学校の代表が、菜の花の種をまいた時の様子と今の苗の様子をスライドで紹介しながら、取



組の報告や今後引き継ぎたいことについて提案しました。

このプロジェクトでは、各学校の児童生徒が中心となり、地域や関係機関の皆さんにも協力をいただきながら、のべ2,820名が関わって取り組んでいます。

また、菜の花の種を植える活動だけでなく、倉吉をよくするための活動を各校で様々な工夫をしながら取り組んでいることが報告されました。

主な発表内容は以下のとおりです。

【各学校の取り組み報告】

■菜の花について…「届けよう 力強いプレゼントを 倉吉の未来に」

- ・菜の花プロジェクトの目的を説明
- ・地域の方による耕運、畝づくり、草抜き等
- ・地域の方と合同の畝作りや種まき
(土曜授業も活用して) ・雑草が生えそうなところにマルチ
- ・小学生と中学生と一緒に種まき (中学校にて)
- ・保育園児と一緒に種まき (上学年が教える)
- ・水やり、追肥、間引き、植え替え
- ・プランターに種まき
- ・プランターをプレゼント (公民館、地域の方、保育園、児童センター、自動車学校)
- ・菜の花で入学式会場を装飾予定
- ・種の収穫 (全校で、地域の方と)
- ・菜種を配布 (運動会・文化祭・イベント・学校公開などで、来賓・地域の方・独居老人・保育園・関係機関に)
- ・ちらしや放送で種まきの協力を地域や保護者に呼びかけ
- ・菜種を配布する際の手紙やメッセージカードの作製
- ・校内に菜の花コーナーを作成・掲示
- ・地域の関係組織に取組を報告



■協力していただいた地域の方々や団体

- ・公民館 ・保育園 ・ボランティアの方
- ・シニアクラブ、老人クラブ ・地域の方 ・保護者

■菜の花以外に取り組んだこと

- ・エコキャップ運動 ・あいさつ運動 ・ベルマーク集め ・自然災害への支援募金
- ・他の花の栽培 ・クリーン活動、地域の清掃活動 (河川敷、サイクリングロード)、
ゴミ拾い大作戦、地域の方との合同清掃



【次年度に引き継ぎたいこと】

- ・今年取り組んできたことを継続すること
- ・ごみを拾うだけでなく、ごみを捨てられないようにする活動
- ・単に活動するだけでなく、その意味や意図を説明していくこと

続いて、次年度に引き継ぎたいこととアピールについて全体で確認しました。このアピールは、中学生が原案を考えたものです。この確認の中で、代表の中学生は、「関係機関、地域の方と協力してまちづくりのための活動を、今後も進めていきたい。」と力強く話していました。



【 菜の花プロジェクト2018アピール 】

- ・つなげよう 倉吉の伝統を希望あふれる人々へ
- ・ともに広げよう 菜の花のプレゼント
- ・つたえよう 花ひらく彩鳥取（いろとりどり）のふるさと

アピールが採択された後、関係機関の方々から指導講評をいただきました。



【国土交通省 倉吉河川国道事務所 高木 繁 所長】

倉吉市の小中学生の取組は、大人へのプレゼントと感じた。私たち大人もがんばらないといけないと思った。こうした取組を続けていくことが大切であり、次の3つのことを心にとめてほしい。1つ目は、やり続けること。2つ目は、あきらめないこと。3つ目は、おもしろがること。今日の気持ちを持ち続け、誇りを持ってこれからも取り組んでほしい。私たちもがんばりたい。



【中総合事務所農林局 加藤 裕利 局長】

活動の内容も発表の様子もすばらしかった。こうした経験は、自分自身の成長につながっていく。今後も積極的にチャレンジして行ってほしい。また、菜の花を育てるだけでなく、挨拶運動や清掃活動など地域の人たちを巻き込んで活動している。人と人がつながり、ふるさとを愛する心が育っていくと思う。今年が10年目ということだが、今後も続くように後輩につなげて行ってほしい。



【JA鳥取中央 藤原 治 参事】

小・中学生から「畝」「土づくり」など農業の言葉がたくさん聞かれ、頼もしく感じた。JA鳥取中央は「農業を愛す、地域を愛す、そして人間を愛す」ということをキーワードにしているが、挨拶名人、クリーン作戦など参考にしたいこともあった。また、「雪の下から菜の花の力」という言葉もとてもいいと思った。小・中学生の言葉、行動、笑顔、元気から、本当に多くのことを学ばせてもらった。



【鳥取県立農業大学校 遠藤 英 准教授】

農業大学校では、農業をしたいという人を支援しているが、みんなの取組で参考にしたいこともたくさんあった。「菜の花を見て笑顔になった」という発表があったが、花の力というものがあると思う。また、「地域を元気にするにはまず自分たちが元気でなければならない」という言葉があったが、本当にその通りだと思う。花の魅力を校内や地域に伝えてみんなを笑顔にしたい。

その後、会場を倉吉未来中心に移し、大ホールのステージを借りて「菜の花プロジェクト2018アピール」を市民に向けて行いました。最後に各中学校の代表生徒が各関係機関の方々にアピール文を贈呈しました。

10年目を迎え、これまでの先輩の思いを後輩達がしっかりと受け止め、今年の活動につなげていました。ふるさとに誇りと愛着を持つ児童生徒の姿に、心強さを感じ、倉吉の明るい未来を感じることができた一日でした。



【児童生徒の感想より】

- ・淀屋サミットに続き、菜の花プロジェクト報告会に出られ、すごくよい経験になりました。またこのようなことがあったら参加したいです。
- ・自分たちが今やっている活動を他の学校に知らせられたし、参考になったらいいと思った。倉吉市に黄色い菜の花のじゅうたんを広げたい。ふだんからもリーダーになっていきたい。
- ・他の学校の発表を聞いて、自分たちでもできそうな取組があったので生かしていきたい。自分たちの学校でもたくさんの活動に取り組みたいし、学校を盛り上げていきたい。
- ・菜の花プロジェクトを通して小中学生、地域の人たちでいい町をつかっていこうという気持ちが強くなったように思う。
- ・今日の体験を生かして、来年度の生徒会運営に生かしていきたい。自分の学校では地域との交流が少ないと感じたので、何か企画を立てて町の活性化に役立てていきたい。
- ・他の学校などと協力・交流を行っていたのを知り、自分たちだけでなくもいいのだと思った。多くの人が集まって行うのが、このプロジェクトの本質だと思った。
- ・菜の花プロジェクトから様々な地域活動に広がっていることがよく分かった。来年、高校生になるが、高校生の自分にできること、自分だからできることを考えていきたい。

